

資料

- 資料1 全校調査に基づくカリキュラム開発の考え方への提言
- 資料2 インタビューガイド
- 資料3 カリキュラムに関する調査票

全国調査結果に基づく カリキュラム開発の考え方への提言

看護師等養成所の教務主任・教員の皆様へ

平成31年3月

「看護師等養成所における教員のカリキュラム開発力に関する研究」報告¹
厚生労働科学研究補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）

はじめに

本資料は、看護師等養成所におけるカリキュラム開発と教員のカリキュラム開発への理解・力量の実態を全国調査し、その結果に基づいて看護師等養成所の教務主任と専任教員に向けて「カリキュラム開発の考え方への提言」としてカリキュラム開発への支援をまとめたものである。また、看護師等養成所の指定・監督を実施する都道府県担当者の参考になることを願う。この提言は、調査40項目の平均から顕著に低かった9項目に解説を加えたものである（次頁参照）。

医療・看護への人々のニーズは増大と多様化の一途をたどり、患者像は変化し続け、看護職の新たなビジョンの必要性（厚生労働省, 2017）が指摘され、看護師等養成所の教育も新たなビジョンに対応する必要がある。しかしながら、その実情は、保健師助産師看護師学校養成所指定規則に則ったものであり、各校のカリキュラムはどちらかといえば画一的になりやすく、カリキュラムの見直しも指定規則の改正時等に行った後は、現状維持とされる傾向にある。

そこで、本提言はそうした傾向を打破するために、今後、各校で行われるであろうカリキュラムの見直しに活用されることを願う。

なお、本資料におけるカリキュラム開発とは「学校教育計画としてのカリキュラムを実行し評価することによってカリキュラムの機能を改善する活動の総称」（教育学大事典, 1978）に従った。

「カリキュラム開発に関する調査」 40項目

▶ 全項目平均（3.41）から顕著に低かった9項目（平均）は以下であった。

- ・カリキュラム評価には、学外者の意見をとりいれていますか（2.21）
- ・現行のカリキュラムとディプロマポリシーとアドミッションポリシーとの整合性を検討できていますか（2.56）
- ・カリキュラム開発ができる教員の育成に向けた学習の機会を提供できていますか（2.63）
- ・解剖生理学等の専門基礎分野は看護の視点で教授できる教員を配置していますか（2.63）
- ・カリキュラム開発について、教員間で学習する機会がありますか（2.76）
- ・カリキュラム評価は、エビデンスとなるデータに基づいていますか（2.82）
- ・カリキュラム評価は、明確な基準をもって行っていますか（2.89）
- ・カリキュラム評価の方法を教員間で共有していますか（3.01）
- ・看護に対するニーズの変化に応じて教育内容や単位数を見直していますか（3.02）

目次

1. カリキュラム開発ができる教員の育成機会について
 2. カリキュラム開発について教員間で学習する機会について
 3. カリキュラム評価の基準について
 4. カリキュラム評価の方法について教員間で共有する機会について
 5. カリキュラム評価の方法とエビデンスについて
 6. カリキュラム評価の方法と学外者の意見について
 7. 社会のニーズに対応した教育内容と単位数の見直しについて
 8. 解剖生理学等の専門基礎分野を担当する教員について
 9. 現行カリキュラムと3つのポリシーとの整合性について
- 巻末 カリキュラム開発に関する現状確認のチェックシート

1. カリキュラム開発ができる教員の育成機会について

- ▶ 教員の育成機会は、教務主任養成講習会が最もよい学習の機会です。

カリキュラム開発の学習の機会は、現行では①教務主任養成講習会、②都道府県単位で行う継続教育研修会、③日本看護学校協議会の行う教育研修会などです。なかでも、最も系統的に学習ができ、演習を含めて、しっかりと開発について学べるのは①教務主任養成講習会です。主だった教員に計画的に上記の講習会や研修会に参加してもらうように努めることが大切です。

また、上記の講習会・研修会に参加した教員の学習成果を学内の会議等で伝達してもらい、それを教員間で共有できる機会を作るとよいと思います。

2. カリキュラム開発について教員間で学習する機会について

- ▶ 教員間の学習機会としては、学校自己点検・自己評価の機会等を利用するとよいと思います。

全教員が自校の自己点検・評価を行えるような組織を編成し、各教員がその組織の一員として役割を果たす過程を通して、自校のカリキュラムの現状や課題を理解できる機会をもつことが重要です。今回の指定規則の改正を契機に、教員全員でカリキュラム評価について考える貴重な機会を作るとよいと思います。

また、カリキュラム開発に必要な知識の修得を目的とした職場内研修を企画し、それを継続的に実施することが重要です。

3. カリキュラム評価の基準について

- ▶ カリキュラム評価では、特定の基準というものはなく、目的・目標を自校で定めて行います。

カリキュラム評価の規準や基準は、どこかに定められているというものではありません。カリキュラムは動態であり、常に見直していくことが必要です。これをカリキュラムマネジメントといいます。完成度が高いと思っているカリキュラムであっても、社会ニーズや学生により対応させるためには、このカリキュラムマネジメントが必要になります。

カリキュラム評価を行うためには、その目的や目標を自校で定めることから始めます。

次に例示を2つ、A・Bとして挙げています。

3. カリキュラム評価の基準について（続）

A. 自校が提供しているカリキュラム全体を、定期的あるいはある特定の時期に見直したい場合の手続き例：

①教育目的・目標の達成状況や卒業生の特性（卒業生像）の修得状況を評価します。既に成文化されている教育目的・目標や卒業生の特性を基に、その達成状況や修得状況を卒業時の学生に問う項目を具体的に設定し、調査等により量的、質的データを収集します。

②①の調査結果を基に、教育目的・目標の達成状況や卒業生の特性の修得状況が不十分な内容を特定します。

③②で特定した内容に関連する授業科目やその教育内容、学習進度を確認し、当該授業の授業評価や目標達成度等、看護を取り巻く社会の現状や将来的なニーズと合わせて修正、改善が必要な点（教育内容や時間数等）を明らかにします。

3. カリキュラム評価の基準について（続）

B. 日頃聞こえてくる学生の声、教員の声、実習施設からの声などがきっかけとなってカリキュラムの一部を見直したい場合の手続き例：

①実習施設等から、学生の看護実践力について何らかの問題提起があった場合、問題の根拠となる学生の学習成果に関するデータを収集し、問題となる内容やその原因を特定します。

②①で特定した問題の内容やその原因、問題に関連する学生の学習成果と、自校の教育目的・目標や卒業生の特性に照らし合わせ、関連する授業科目やその教育内容、学習進度を確認し、修正、改善が必要な点を明らかにします。

このようにカリキュラム評価は、目的・目標を設定し、それに見合うデータを収集し、改善点を見出していくことが求められます。

4. カリキュラム評価の方法について教員間で共有する機会について

- ▶ 学校自己評価計画を検討するときに、カリキュラム評価の方法を協議し、その結果を共有するとよいでしょう。

学校自己評価計画のなかにカリキュラム評価を適宜、盛り込みたいものです。学校自己評価組織が立ち上がっていれば、毎年、評価計画を立てると思いますので、その機会を活用して、評価方法を協議し、その結果を共有するのがよいと思います。

5. カリキュラム評価の方法とエビデンスについて

- ▶ カリキュラム評価は、エビデンスとなるデータに基づいて行います。

カリキュラム評価は、評価の目的・目標に沿ったデータ収集が必要となり、データを多角的に収集することが重要です。

データは、必ずしもアンケート調査で収集する必要はなく、学生への面談による聞き取りや各授業の学生による授業評価結果、看護基礎教育に関する既存の資料などを用いても構いません。

6. カリキュラム評価の方法と学外者の意見について

- ▶ カリキュラム評価は、エビデンスとなるデータに基づいて行うため、外部者の意見を取り入れます。

専修学校の学校評価における外部者の意見は、概ね専修学校におけるガイドラインで示された学生、保護者、卒業生、地域住民、関係企業・業界団体等から収集します。データ収集方法は、聞き取り調査やアンケート調査など様々な方法がありますが、学校行事の機会や実習施設等との会議等の機会を活用することも可能です。

カリキュラム評価には、学校の教職員自らが行う「自己評価」だけでなく、自己評価の結果を評価することを基本として行う「学校関係者評価」、外部の専門家を中心とした評価者による専門的視点から行う「第三者評価」があります。専修学校は、「自己評価」「学校関係者評価」が義務付けられおり、「学校関係者評価」においては、関係企業の役員、保護者や地域住民等により構成された評価委員会等を設置することが必要です。

7. 社会のニーズに対応した教育内容と単位数の見直しについて

- ▶ 看護に対するニーズの変化に応じて教育内容や単位数の見直しが必要です。

社会のニーズの変化に応じて教育内容や単位数の見直しが必要になります。そのため、指定規則の見直しが定期的に行われています。指定規則の見直しは、厚生労働省が有識者による検討会を開催し、現在は第5次カリキュラム改正に向けた検討会が開催されています。この検討会の内容を理解するとともに、自校のカリキュラムを運営する教員一人ひとりが、職務を遂行しながら看護の現状やその変化を把握する努力を重ねていく必要があります。また、把握した看護の現状やその変化が自校のカリキュラムに反映されているか否かを指定規則の変更内容とともに評価する必要があります。

7. 社会のニーズに対応した教育内容と単位数の見直しについて（続）

受験生や地域の人たちに選ばれる学校になるためには、地域のニーズに合致する教育理念をもち、その理念の実現に向けた質の高い教育を提供することが求められます。教育内容の見直しや地域のニーズを把握するための情報を常に収集し、自校の課題を明らかにしておくことが重要です。指定規則の変更時だけでなく、自校のカリキュラムを見直し、必要に応じて修正をしていくことが、より魅力ある学校として存在できることにつながります。

8. 解剖生理学等の専門基礎分野を担当する教員について

- ▶ 専門基礎分野(特に解剖生理学など)を看護の教員が教授する取り組みが必要です。

専門基礎分野は看護学の基礎となる学問分野であり、看護の視点からそれらを教授することが望ましいといえます。したがって、専任教員がそれらの科目を教授することができるとよいと思います。しかし、平成28年度に日本看護学校協議会が実施した管理・運営に関する実態調査では、専門基礎分野の「人体の構造と機能」に関する科目を専任教員が担当している学校が57課程(17.9%)、「疾病の成り立ちと回復の促進」に関する科目を専任教員が担当している学校が47課程(14.8%)、「健康支援と社会保障制度」に関する科目を専任教員が担当している学校が105課程(33%)であるという現状が明らかになりました。

8. 解剖生理学等の専門基礎分野を担当する教員について (続)

解剖生理学を専任教員が担当している学校の中には、医学部の解剖学や生理学教室の授業を聴講する研修制度を確立し、研修を修了した教員が前述したような科目を教授できるように計画的な研修計画を立てている学校もあります。各教員の実践経験や専門性に応じて、専門基礎分野に関する知識・技術のさらなる修得を支援するシステムを作り、できるところから看護教員が担当できるように試みることが重要です。

9. 現行カリキュラムと3つのポリシーとの整合性について

- ▶ 現行のカリキュラムがディプロマ・ポリシーやアドミSSION・ポリシーに合致していることが重要です。

学校は教育目的・目標を設定しています。これらは、入学から卒業・修了まで学校として一貫して提供する教育に責任を持っていることを具体的に示したものです。また、この教育目的・目標の達成に向けて学校が提供する教育内容の全体計画がカリキュラムです。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）とは、卒業・修了までに学生が身につける能力と、その能力を獲得したことを何によって判断するかについての考えであり、学生が学修成果の目標とするものです。

9. 現行カリキュラムと3つのポリシーとの整合性について（続）

カリキュラム・ポリシー（カリキュラム編成方針）とは、ディプロマ・ポリシーを満たす人材を養成するために、どのような科目を編成するか、どのような教育内容をどのような方法で提供するのか、どのように到達度を評価するかについての考え方です。

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）とは、ディプロマ・ポリシーに挙げる能力の獲得とそのプロセスの教育内容の学修にふさわしい者として、どのような資質、能力、関心、態度を入学者に求めるかについての考え方であり、入学者選抜方法を構築する基本を示したものです。

上記3つのポリシーと現行のカリキュラムの整合性が保たれていることが、入学から卒業まで学校として一貫して提供する教育に責任を持つことに繋がります。

カリキュラム開発に関する現状確認のためのチェックシート

(全国調査40項目のうち、カリキュラム開発に関する質問33項目)

カリキュラム開発のためのチェックシート	
項目内容	チェック
<教育目標と科目内容・教育方法との整合性に関すること>	
1 教員は学生の授業評価から授業改善を行っていますか	
2 教員間で、個々の教育観の共有ができていますか	
3 学生や教員のカリキュラムに対する要望を受け入れる仕組みがありますか	
4 講義・演習・実習を連動させた教育方法を組織的に行っていますか	
5 非常勤講師に授業科目のねらい（目的）が伝わっていますか	
6 解剖生理学等の専門基礎分野は看護の視点で教授できる教員を配置していますか	
7 自校のカリキュラムの特長は明確ですか	
8 自校の教育理念・目的に合致した授業科目・教育内容を実施していますか	
9 各授業科目のねらい（目的）と学校の教育目標との整合性は検討できていますか	
10 授業科目名は、学習内容がわかるように設定していますか	
11 看護に対するニーズの変化に応じて教育内容や単位数を見直していますか	
12 専門職としての資質（態度）が身につくよう、プロフェッショナルリズム教育を行っていますか	
13 現行のカリキュラムとディプロマポリシーとアドミッションポリシーとの整合性を検討できていますか	

<カリキュラム開発に関すること>

- 1 カリキュラムを系統的に編成する方法を他者に説明できますか
- 2 カリキュラム開発の意義について他者に説明することができますか
- 3 カリキュラム開発には、卒業生の特性把握が必要であることを他者に説明できますか
- 4 自校の卒業生の特性について他者に説明できますか
- 5 カリキュラム開発には、教育目標の明確化が必要であることを他者に説明できますか
- 6 カリキュラム開発における理論的枠組みについて他者に説明できますか
- 7 カリキュラム開発に関する情報を得る機会がありますか
- 8 看護をとりまく医療・社会の変化について他者に説明できますか
- 9 看護職に対する社会の期待について他者に説明できますか

<カリキュラム評価に関すること>

- 1 カリキュラム開発ができる教員の育成に向けた学習の機会を提供できていますか
- 2 カリキュラム開発について、教員間で学習する機会がありますか
- 3 カリキュラム評価の方法について他者に説明できますか
- 4 カリキュラム評価を継続的に行っていますか
- 5 カリキュラム評価は、明確な基準をもって行っていますか
- 6 カリキュラム評価では、授業進度についての評価を行っていますか
- 7 カリキュラム評価の方法を教員間で共有していますか
- 8 カリキュラム評価は、エビデンスとなるデータに基づいていますか
- 9 カリキュラム評価には、学外者の意見を取りいれていますか
- 10 学生による授業評価を組織的に行っていますか
- 11 自校の自己点検・自己評価時にはカリキュラム評価を行っていますか

文献

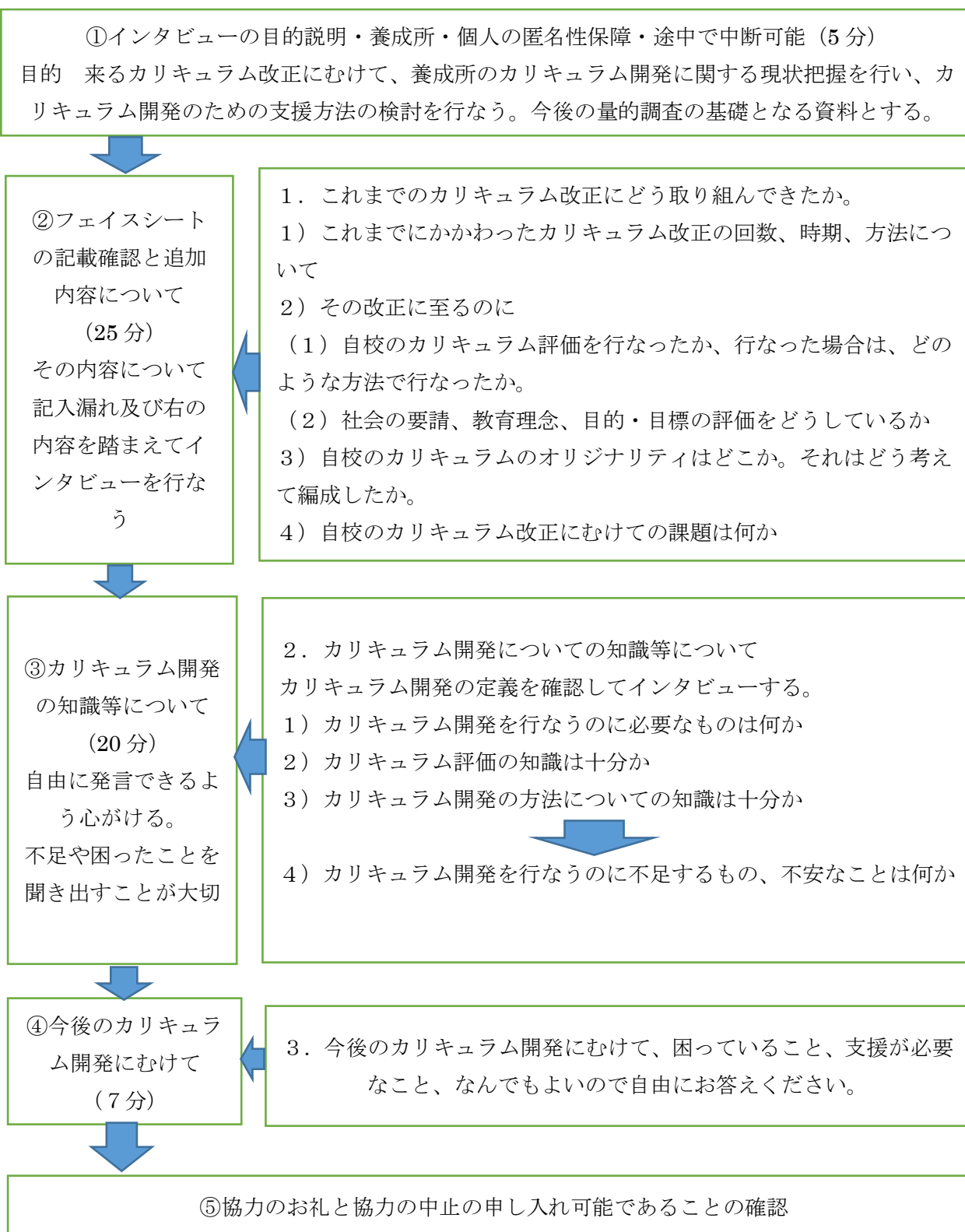
細谷俊夫, 奥田真丈、河野重男 編 (1978) . 教育学大事典. 第一法規.

Iwasiw, C. & Goldenberg, D. (2015). Curriculum Development in Nursing Education, Third Edition. Canada: Jones & Bartlett Learning.

厚生労働省 (2017) . 新たな医療の在り方を踏まえた医師・看護師等の働き方ビジョン
検討会報告書, Retrieved from <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000160954.html>

田中統治, 根津朋実 編 (2009) . カリキュラム評価入門. 勁草書房.

インタビューガイド



カリキュラム開発に関する調査

I. 以下の1～40の質問それぞれについて、該当する番号を○で囲んでください。

・カリキュラム開発とは、「学校教育計画としてのカリキュラムを実行し評価することによって **カリキュラムの機能を改善する活動の総称**」とします。

・カリキュラム評価とは、「教育活動を調査・分析することによって、その教育のプログラムがもつ価値や効果を明らかにし、カリキュラムの**開発・改善・選択・実施などに役立つ有効な情報を提供するもの**」とします。

		そう 思わない	あまり 思わない	どちら ともい えない	やや思 う	そう思 う
		1	2	3	4	5
1	カリキュラムを系統的に編成する方法を他者に説明できますか	1	2	3	4	5
2	カリキュラム開発の意義について他者に説明することができますか	1	2	3	4	5
3	カリキュラム開発には、卒業生の特性把握が必要であることを他者に説明できますか	1	2	3	4	5
4	自校の卒業生の特性について他者に説明できますか	1	2	3	4	5
5	カリキュラム開発には、教育目標の明確化が必要であることを他者に説明できますか	1	2	3	4	5
6	カリキュラム開発における理論的枠組みについて他者に説明できますか	1	2	3	4	5
7	カリキュラム開発ができる教員の育成に向けた学習の機会を提供できていますか	1	2	3	4	5
8	カリキュラム開発について、教員間で学習する機会がありますか	1	2	3	4	5
9	カリキュラム開発時に、実習施設確保のことが課題となっていますか	1	2	3	4	5
10	カリキュラム開発のために人材補充などの人的支援を考えていますか	1	2	3	4	5
11	カリキュラム開発時にはスーパーバイザーが必要だと思いますか	1	2	3	4	5
12	カリキュラム開発に関する情報を得る機会がありますか	1	2	3	4	5
13	看護をとりまく医療・社会の変化について他者に説明できますか	1	2	3	4	5
14	看護職に対する社会の期待について他者に説明できますか	1	2	3	4	5
15	カリキュラム開発時に、行政報告（14条報告）などを意識し困難さを感じることがありますか	1	2	3	4	5
16	カリキュラム評価の方法について他者に説明できますか	1	2	3	4	5
17	カリキュラム評価を継続的に行っていますか	1	2	3	4	5
18	カリキュラム評価は、明確な基準をもって行っていますか	1	2	3	4	5

19	カリキュラム評価では、授業進捗についての評価を行っていますか	1	2	3	4	5
20	カリキュラム評価の方法を教員間で共有していますか	1	2	3	4	5
21	カリキュラム評価は、エビデンスとなるデータに基づいていますか	1	2	3	4	5
22	カリキュラム評価には、学外者の意見を取り入れてありますか	1	2	3	4	5
23	学生による授業評価を組織的に行っていますか	1	2	3	4	5
24	教員は学生の授業評価から授業改善を行っていますか	1	2	3	4	5
25	卒業時に自校の教育目標の達成状況を評価していますか	1	2	3	4	5
26	卒業生の特性に到達しているかどうかを学年ごとに評価していますか	1	2	3	4	5
27	自校の自己点検・自己評価時にはカリキュラム評価を行っていますか	1	2	3	4	5
28	看護師等養成所の指定・監督権限を持っている都道府県の関連部署と定期的に連絡する機会がありますか	1	2	3	4	5
29	教員間で、個々の教育観の共有ができていますか	1	2	3	4	5
30	学生や教員のカリキュラムに対する要望を受け入れる仕組みがありますか	1	2	3	4	5
31	講義・演習・実習を連動させた教育方法を組織的に行っていますか	1	2	3	4	5
32	非常勤講師に授業科目のねらい（目的）が伝わっていますか	1	2	3	4	5
33	解剖生理学等の専門基礎分野は看護の視点で教授できる教員を配置していますか	1	2	3	4	5
34	自校のカリキュラムの特長は明確ですか	1	2	3	4	5
35	自校の教育理念・目的に合致した授業科目・教育内容を実施していますか	1	2	3	4	5
36	各授業科目のねらい（目的）と学校の教育目標との整合性は検討できていますか	1	2	3	4	5
37	授業科目名は、学習内容がわかるように設定していますか	1	2	3	4	5
38	看護に対するニーズの変化に応じて教育内容や単位数を見直していますか	1	2	3	4	5
39	専門職としての資質（態度）が身につくよう、プロフェッショナリズム教育を行っていますか	1	2	3	4	5
40	現行のカリキュラムとディプロマポリシーとアドミッションポリシーとの整合性を検討できていますか	1	2	3	4	5

Ⅱ. 回答されているあなたご自身についてお尋ねします。
該当する番号を○で囲み、空欄へは記入をお願いします。

1	カリキュラム編成（一からカリキュラムをつくる）した回数	1. 0回	2. 1回	3. 2回	4. 3回	5. 4回以上
2	カリキュラム開発（存在するカリキュラムを目的に沿って改善）した回数	1. 0回	2. 1回	3. 2回	4. 3回	5. 4回以上
3	年齢	（ ）歳				
4	職位	1. 教務主任 (あるいは同等職位)		2. 副校長	3. 校長	4. その他 ()
5	最終専門学歴	1. 看護師等養成所 (専門・専修学校)		2. 看護系短期大学	3. 看護系大学	
		4. 看護系大学院修士課程		5. 看護系大学院博士課程		
6	専任教員としての要件 (一つだけ選択)	1. 5年以上の業務経験があり、専任教員として必要な研修*を修了した *専任教員養成講習会(厚生労働省が認可した看護教員養成講習会を含む)、看護教員養成課程、国立保健医療科学院の専攻課程				
		2. 3年以上の業務経験があり、大学で教育に関する科目を履修し卒業した				
		3. 3年以上の業務経験があり、大学院で教育に関する科目を履修した				
		4. 5年以上の業務経験があり、看護師または准看護師の教育に関して、同等以上の学識経験を有すると認められた				
7	教務主任養成講習会の受講の有無	1. 有		2. 無		
8	教育経験年数(通算) (6か月未満は切り捨て・6か月以上は繰り上げ)	1. 1~4年	2. 5~9年	3. 10~14年	4. 15~19年	5. 20~24年
		6. 25~29年		7. 30年以上		
9	看護職としての臨床(現場)経験年数(通算) (6か月未満は切り捨て・6か月以上は繰り上げ)	1. 1~4年	2. 5~9年	3. 10~14年	4. 15~19年	5. 20~24年
		6. 25~29年		7. 30年以上		

Ⅲ. ご所属の養成所についてお尋ねします。該当する番号を○で囲み、空欄へは記入をお願いします。

1	設置主体(1つだけ選択)	1. 学校法人					2. 独立行政法人	3. 医療法人	4. その他の法人	
		5. 都道府県		6. 市町村	7. 医師会	8. 日本赤十字社				
		9. 厚生農業協同組合連合会					10. その他()			
2	所在都道府県	()都・道・府・県								
3	養成所の課程	1. 3年課程 (全日制 修業年限4年)			2. 3年課程 (全日制 修業年限3年)			3. 3年課程 (定時制)		
		4. 2年課程 (全日制)			5. 2年課程 (定時制)		6. 統合カリキュラム			
4	1学年の定員数	1. 40人未満		2. 40~80人未満		3. 80~120人未満		4. 120人以上		

3/3頁

今一度、マーク・記入漏れがないかご確認いただけますようお願いいたします。

ご協力ありがとうございました。